

クラス	305	担当教員	東内 瑠里子
テーマ	乳幼児の生活体験（自然、食、生活習慣、関わり）と保育実践研究		
著書・論文 研究課題等	【保育分野】「第7章 数や文字等への興味」『保育内容シリーズ 領域「環境」』2018年2月、「小学校との連携」『生活事例から始める 保育内容「環境」』2023年3月（予定）、他 【子育て支援分野】2022年度厚労省委託研究事業「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究」（2023年3月31日まで）		
ゼミナール概要			
キーワード：キーワード：乳幼児の生活、自然、食、生活習慣、関わり			
<p>目的： 本ゼミは、3年次に、美浜町の季の野の台所（農園）における「森のようちえん」の運営（右のQRコード参照）を通して、実際の親子とのかかわりから、子どもの自然認識の発達理解や、保護者理解、学生自身の実践力を養うことを目的としている。</p> <p>学習目標： ①乳幼児の生活体験（自然、食、生活習慣、関わり）と保育実践研究の先行研究・先行実践を整理できる。 ②自然の中での子どもの遊びを援助でき、子ども以上に自らも遊ぶことができる。 ③子どもの姿の記録を書き、実践を評価できる。 ④保護者の声をきき、子育ての応援団として、子育てを共に行う姿勢をもつことができる。 ⑤森のようちえんの運営に関わりながら、関係者との対話を通して、企画・準備・実践・評価・改善を行うことができる。</p> <p>内容、方法、授業計画等 毎回、子どもの姿を記録し、子どもの発達について議論していく。時間割上のゼミの時間だけではなく、月1回、土曜日または日曜日に活動を行う。場所は、美浜町の季の野の台所をフィールドとする（QRコード④参照）。 「森のようちえん」の1日の流れは、自由遊び→主活動（参加は自由）→自由遊びである。子どもは自然の中に入ると、自分から遊びを発見したり、創造したり、友達の遊びを模倣したりしながら、自分を育てる力をもっている。学生は、子どもと保護者の両方に関わり、その姿から学ぶ。1年間の主活動の流れを大まかに「出会い」「ふれあい」「共同」「生活の創造」「文化の創造」という6つのステップに位置づけているが、企画の詳細については、ゼミ生のアイデアを取り入れながら運営を行う。詳しくは、参加して下さる保護者と学生とで、Facebookに活動内容を記録しているので参考にしてほしい（QRコード②③参照）。 以上で培った実践知を踏まえ、4年生では、卒業研究に取り組む。卒業研究では、森のようちえんをテーマにする学生が多くいる。また、4年次も継続して森のようちえんに参加することができる。 しかし、1年間森のようちえんに参加してみて、森のようちえん以外で卒業研究をしたいということであれば、本ゼミは「調査研究」（現場に行き、フィールドワークを行う）または「卒業制作」（制作物をつくり、試行錯誤したプロセスや、制作物の価値をレポートする）に限定して指導している。</p>			
②学生の学びの紹介	③インスタ（専修用）	③Facebook	④フィールド
			
※QRコードが読み取りづらいときは、読み込むQRコードの両サイドのQRコードを手や紙などで隠すと、読み込みやすくなります。			
担当教員からのメッセージ			
まず自然と人間が好きな人、そして 謙虚 に子どもや保護者および友達から学ぶ姿勢のある人、友達の学びを共に支えあおうとする姿勢を持てる人を募集します。無断欠席厳禁。森のようちえんは全員参加します。			

